

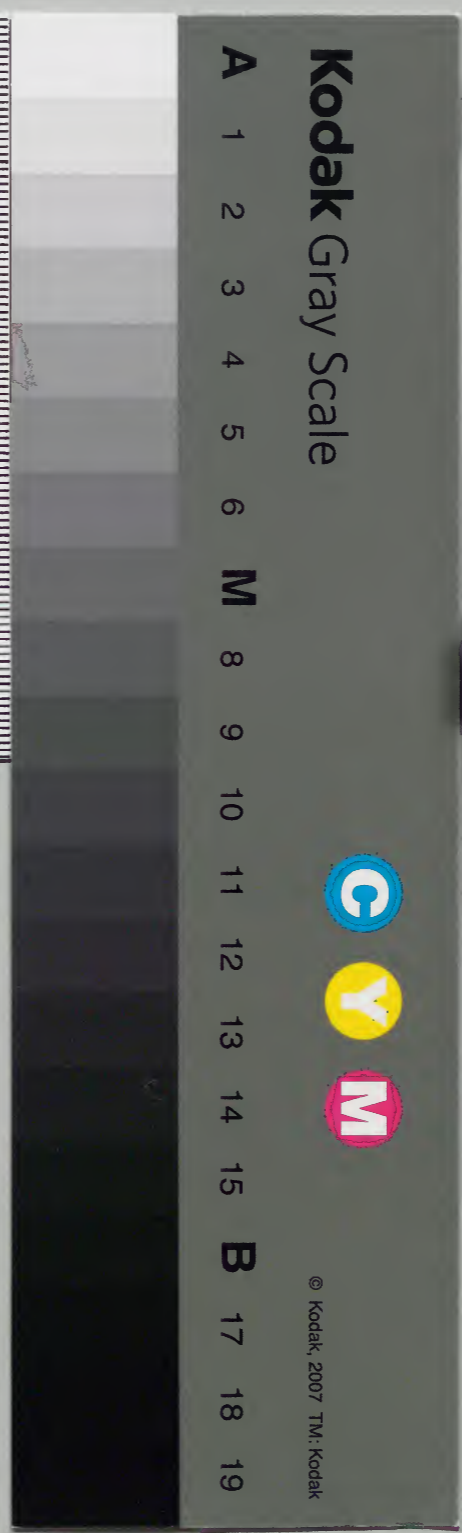
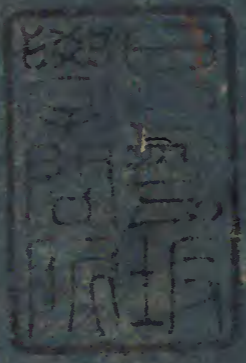
和書抄

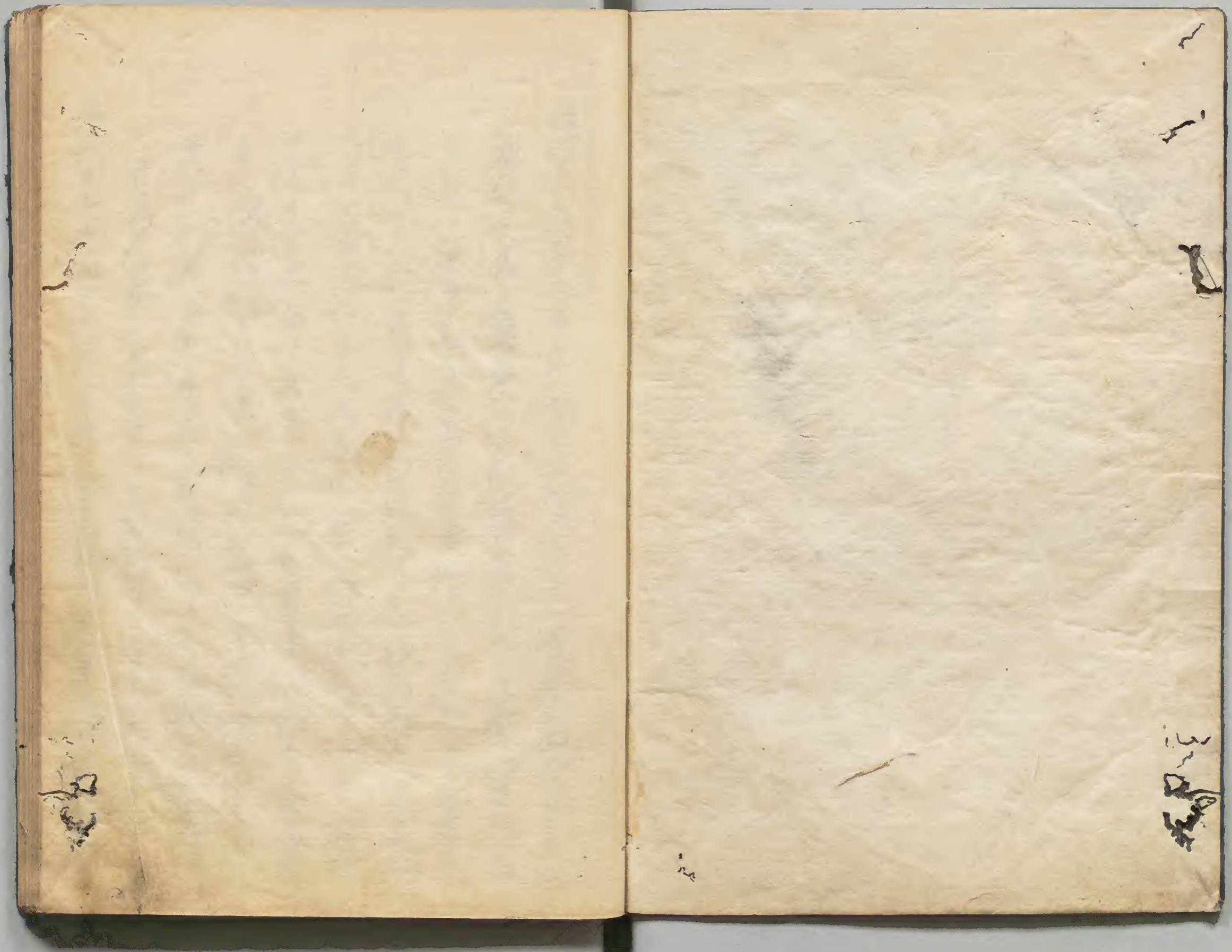
上之三

和書門			
類	號	冊	架
八	七	一	六
二	三	三	函
九	冊	架	冊

內閣文庫			
類	號	冊	函
八	七	一	六
二	三	三	函
九	冊	架	冊

內閣文庫	
番號	和 18716
冊數	9 (3)
函號	203 99





その小童のいふ文をきけくももろをあやうく
てをくらすあまのいんべの眼も童腫まきく
く賢き相のをとりけれのやそらくは徳小付く学
文をせうせしれけろあまのいんべの時棟くして廣
博賢の文士かりけまの君ははく博学の道をつけ
て養せの力をいんべの考の人のきりきり

書寫村をよんせ成の善賢と人よりるるを中宿
寤より法し給けろよ或転經よ勝く經と小
きり形く賜也よよりのいんべくえけしきり
その善きよ成の善賢と人よりるるを中宿

在女の長者と人よりるるを中宿
形してのいんべく長老のいんべく
よとあまより上の軍とて在妾礼舞の程也長老
よと成子給く説をよく礼拍子のいんべく
其詞よ云

周防むらけの中ねろるる井は風いんべく
さうつ波たつとよんべく
めもつろるるいんべく
形よ現しよ白象よまありく肩間のえんを放
て道俗貴族男女と怒す昂微妙の音あつとよ

して實相を漏る大海は五蓋六欲の用にあらずとも
際多んまの波のうらみ時わしと感涙と何人かて
して眼を用くカハ又女のうらみと女人の染と成
て固防むらすその用をわたり眼を用時ハ又菩薩の
形と現しと法門を演給此處を教礼してわく
くゆり給耐長者俄に府を立用道より上人の許
を牙と此事には外は不可及とわく昂然と死せし
まをうまはぬと甚毒し長者の折滅の間起要の
息をうらみ悲泣する事限形し上人まなすく
悲涙よわらむとく海路よまなすくわらむとわらむ長志

女人好色の類ひが六難は是を捨悉の化作とわく人仏
并の悲願衆生化度の方便とわく形をばあくる
命と不捨の道とても賊はわらむとわく事ハ法の
もと心は金し此毒人の無毒の人也法文とわくまをせ
むして惠心檀那の僧心かとわくまを志とく任果の縁
覺の佛不へいつらとてつれけをを到るもいつらぬも
いつらも作りやん無蓋也といふれもれハ法門をば法
してして惠眼の開く事とて作まかやの回念よハハ
のうとて柔ゆる也といふれもれハ上人の根の法門ハ
普賢のありしとて解脱セしり給也と普耐惠

心敬敬の思も惜すし礼誅しと極那子此をやりしを
終とりされしなり

成龜如冷山端嚴甚傲妙如淨瑠璃中肉現真金像
と加隨を誦しとありまれり行甚菩薩の和泉國
の天名の里ますまれ弘法大竹の讚岐國の度那
しり此終りしは口乞迄鄙の民間をいゝるれす
いゝるも各持志のりを終り終りし君後大臣を
元志の尉國勝之子也粟田元大臣の但馬も有頼り
しと二人ありし其又賦しとれ其又社を賞せ
所ましと大臣のわしとあり官も終りしと後

漢書よ云

胡廣累世之農也伯始教位公相

京憲本醫之職也叔度勤名京師

加々傳説り殷宗の夢中に入り志速民と渡す
舟と成呂尚周文の車よりたしなり一帛世を治る
そりしは此賦老の成也と二人共語く捕佐い
きりし賢也なりしとあり也二条院法沙創製云

殷帝詔嚴郊野月周文禮原渭陽風

所貴是賢也と云ふを授えしと云く作し
終り也虞舜の雷澤の漢又なりとれ其後帝

後よ善くも竊威と牛口の死者おろし終よ忠政よ
む 天子をり 顔回のやと成よ若きりよ
も賢愚と交るる人きり旁人を志せぬあを
得すもく心をきり人きりとそくきりられしと
思ふよくもきりよのよ未必愚と云人きりす
て洞のきり又其人あすして其官よ所る是
と小人とよりサ人の官よあつ暫く闕するよハ志
すともまきり累世法花の人あつとも急量乃
乃くしむよハ氏と継がしサ人の六年の若を云
よあすすヤ乃愚よ魚の経を云也又道德あると

天子と云道德やをサ人とし共きれん衆國のよ
も其心愚かす此ををたらんは人のすもく
心者志りしとて一節は作くよきりす凡まきり
とをのつり共あしん事を疑もへり也魚と又人傷
の事ハはくとも川神徳をあつりねるよハ
昔漢家の國皇帝運多しす佛法をわん全
て退き一衆邪の逆臣天の誤をまぬれす況や
庶人の成よわくとも

第百可誠人と事

或人云人の徳はくちまよき事と云くは人の
乃徳をとりてまよき事と雖もかきす事と
一徳をとりてまよき事とすまよき事とす
一徳をとりてまよき事とすまよき事とす
一徳をとりてまよき事とすまよき事とす
一徳をとりてまよき事とすまよき事とす
一徳をとりてまよき事とすまよき事とす
一徳をとりてまよき事とすまよき事とす
一徳をとりてまよき事とすまよき事とす
一徳をとりてまよき事とすまよき事とす

ころをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや
つらむをうれ満らるるにや

一 行基菩薩菅原寺の東南院にまよき事とす
時弟子とまよき事とす
と命とまよき事とす
一 虎の死してはまよき事とす
書とまよき事とす
續後方奇

法の門へんてんてんてんてんてんてんてん

わけて自戒を樂とせ終始より朝野を戴き命
死して留る虎死留皮又云只是禍の門也古のされ禍
の根也養生抑え便口如鼻終成勿事やとの方々を
思ふべく初はこれ始なり又老子傳より多言害成
多事の害非より久くを事としくつと誠心
を又人の事命を打りてさねと世人不けん始
より交りて指しん非はよりすをのつとあま
り合よりしとさるるやとあま立れく命と此文の
をくるなり

●東田潜はち魚房と云人よりけりし年は如命と云

とあれと云ひし事と云いあはれとあれは心は常の人
死をまけけるよあつよの夢は西より中と云あつあり
本はりくそ梅花よりり常のこくくつとくくつとく
やうりよりけりよあつと云くと思程は侍は年
もさ人あり直衣よりすりらの指費は紅の下の袴
とさくり人を鳥帽を以てあつの鹿の毛
くそ常の人と云いあつと云りたのりよ常と云て
右のり筆と深く物と事する守久也あや
て指人よりし思ひよ人云や一年は人丸と云
りけはら其志原よりり形を人くさるるなり

きくうらけら共ぬ夢をく後胡は法師をよ
て此花をとりてうせめれと學りされんらん
かやとくぬりありを寤りて常はれとめれ
共きうらやももんさうくとりて写し
まれり年以るく死んてけり時白河院は遣
まりもれんらんは收をゆく時寤の中は加へく
鳥羽の室を納りれり六条修理左大臣
心はのくは御して信成と結く書字
まきりりり敷光は讚作りて
活書はせくおさうて培て教付りける時

聲達多められた去道の人の事
の倍倍はらりて年以教付りて
未。長實の家保りて切りて三男頭術は遣
培りもれん譲けりけるを院は遣せり
ける時感るけるを長實院系はけり
むらやももん人丸教はを意りて
在紙一役はをとりて恩りもれん
院の時氣をとりて恩りもれん
て洪の年の家系りてけり事
アめりりくわたりてけり事
とる房さうり

てこのあまのあまの事ありと見えく家院の宮の
の内も圓て年は命をとりけり汝の父慈は是を嘗て
久しく成ぬ方年のおろしくも遠く不富の事
かりとせらるゝむらゝせ給ぬれいりくおし年
中におくは門はしてきつふせきまよりけり是は付
ては新のまは成よけりといん

◎塔河院法府中宮の法方半物も砂金もきて
双りとも女ありあり兵庫氏源仲正のまゝもあま
比敵の命延のく鴨井友は集りて酒のまけり
次よあまの人の砂金も奉成りありおして一日の事

ておのあまのあまの事ありと見えく家院の宮の
の内も圓て年は命をとりけり汝の父慈は是を嘗て
久しく成ぬ方年のおろしくも遠く不富の事
かりとせらるゝむらゝせ給ぬれいりくおし年
中におくは門はしてきつふせきまよりけり是は付
ては新のまは成よけりといん

くもろまふりやうとて烏帽子とくしあしつ誤
しつらつしつらりしとてふんふんしてかたはりゆく
りをうらうら編く糸りを服さうら也泰忠目
くらせしめれの書附と此流人のふめはらそひけ
るとおぼてもあか盛重のゆいし誤らしたるを
恐まらうめく半しあめまてゆまらうそく此中
として其流人のふめは相具してゆるし奏
しめれの二人まらりそりた教わりのりすまけ
まらと澄人かゝたら半はは嚴重也とら威
らるゆりゆて仲正取あしは重く成はまらゆ

ま天程仇實あつひけらうとてお社しあつひけら
と人あつひけらとてその其は花園のおしつ
まらと流くあつひけらよ文正仰と博士教中と云けら
まらとそりまえいと志あつひけらと此仇實花園
まらとてお落し流は此文のまらと人附の仇實と
らまらとてお物を教中はまらと方つひけらとて後
流事たるを甲けらと心ゆすまらとあつひけら
ひけらと實とら思ひかんまらとてしつしつ秀白と
しとあつひけらとあつひけらと真と本とあつひけら
とあつひけらと花と教中と春霞紅と云あ

るの敵意は深くいへども「まゝ白也」と感給ふは
おどろくありたり此等つゞきおどろりて教旨は
りりそりけりまゝと改め流し世給ふんいぢと怒て
家ら矢取成りていり仲ふるより人の目を見
て人へ憤り深く侍連たふりまふは似ぬいぢと怒り
此下句とて付侍りめとて去るゝと依實園を於
雪白とて付侍りけりあゝいぢと感給ふり世人
其比物流しとて真て在り

④ 右中井惟家と云人へさうり我々社より事なげり
と云人よりけりさうりあれ世の末は神も佛も欲の深く

ありまふりまゝとて桃も幸ありけりまゝあり女房
のい社名は道楽とてりけり夢は武志の忠告とて
る老をたて惟家の年といはるゝと氣まて作しとわ
るを弟くおぬと思ひまはなかく海系とて大船を御
とよか命の付入い道のいぬとまゝに成実の
角よりいけり僧のまゝありいれと作事ありとて
て石魚溪と思ひ曉下向いけりまゝありまゝとて人
大中舟及係よしと来夫給をさうとてさうとありと
あきまゝいりまゝとていぢとて大船若よしとせ物
思ひといけりまゝとて

④ 文範氏訪て餘慶僧正を責す僧とて人の妻とす
りしときくそり僧正此中守りて息子民訪の汗入
りしときより民訪其心をゆるく其方の由多く
あつたりもれぬ僧正然る事あると云ふ中守んとき
もれぬ物よりけり程も然る投書とて持せし
き連六屏凡の上より投ぎてすまひひきめきけ
りしとき僧正所しとてゆきまかり文範の三日より
死にかりしとてけりやと聞きりまかり依りて其川具
して二字と僧正よりしと命いもよけり

⑤ 中紀云通後子よ世尊寺阿闍梨仁俊とて顯密

志法とて貴き人ありけりとも羽院よひけり其房
仁俊の女心あり者の空をまもりとけりけりとありき
りしとき口おと見もれぬ北野子系篋して此紙を
すまひとけりしと

表も神とけりしと見りし人々も人のうらみと
とまけりし其女房赤袴とて腰よきとてよ
も錫杖をもち仁俊よきとてけりしとて
院の法師よきとて疾くみりしと見りしと
おぼしかり仁俊をまかりしとてもれぬ神志
あつたりしと感して涙と流して其慈悲死と満

経もれぬ女房の中も成まけりし一息思ふくも
丁と云は馬をそそひせりけり

六 雅縁河因利をすくく人何の意趣なるも人慈惠僧
印を盤初肉食の人をさる由を實とて付せりけり
惠此事を因之憐れて起請を書きく三塔を披
露せり其詞云

若被戒無慙くして天台座を任せりむといふ
忍梳髮先由實は強し後請と後軍は致しん念
也依今今と寤は向よりく此事を披陳す

さうくさうりけり其後雅縁三塔を走りくして降

初持律の人よそととり付するむんとしてるひを
らげりともあれぬおと雅してありきとていふ
あり

七 九条殿右大おとせりけり比護夜三位の尊は
取よりかきあつひきとけり常は和音の所
はまけりし捕胡と来てお治の次は一日新法
仰信りけりいふ依大お流されけり日陪徒惟
成送つとも未きとけり茶煮海波と云曲と教
とていふとていふとていふとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふとていふ

して侍を遣はせしむるにけり或は海波と云物に於
及侍の孫何の文字ありそのれけりをわするその時書
する事と書ふはとて海波の事と云とわかれと候
けり海捕頭長と云ま海波と云人々いふ事ありわね
曲なりとの金人あり不用其信はとの位とてふる曲し
あかしく其道の人よりゆるるへして大おりのは世の竹よ
てなりしと云なりけり此事と云りかれば侍と云りて
やめしひけりをまはせしむるへして中頼ますしめし
ましと云りしと云く絶やる地としていふに力ありと云
えりゆりしと云りしと云へては首のかけを擡ぐは其水

一五八

と云く侍也と云もれは延喜殿より聞らる諸儒の文者
よりわたりた菅原丞相より及て早く及第すしき
中勅定を下されし其時博考しと書と館と云り
あり

⑩天曆伊弉月次の序門等には抄衣所と云盛誅云
秋中より并此序の事也衣つる事も時と云ん
紀時文件の通事なり書附筆と押云衣と云りと云
らるる事なりと云んと候すらるる盛と云らるる事
云

各道板の用の上米は新入とてとやと云らるる物

と縁する此節のや行時文皇用志の何文公實
り子とてゆく難一けりよしく淡うりきり

① 凡京寺題季新院は泰きりけりよは百首
やハ習ひきりけりよと作とてはもれハ習ひきりけりよ
とすといけりハ誠とや百首ハ一回ハ文字の句と
よまぬかりと何ハ行と何ハ始もれハ事ハりけり
び百首まてしよじ物ハ連ハ何ハりやいぬん
されありよ公行のこゝにわると作とてはもれハ言
堀川院百首ハ凡ハりよは言ハ事ハ公實ハの事ハす
すといり言置の兩頭ハ林凡と云上下の句ハ一並

羽登蒼海波是皆盤也これと縁せん大物もこころ乃
そてやとてをあらへはもれハ兼侍也とやハ或人
よのていふとそんんきれハ皆ハ也ハ色ハなすといてけり
と縁くゆり也とやハ力りては言ハより彼人ハ梅
しく能くくこて是くけりよはは色ハ乃師
は泰わいそりけりよは蒼海波の端乃何ハ思
いしとて思てくゆりて清病とれもれハ
よ易水曲と云ハの言ハ筆ようつては也盤
調の
也

② 二葉院清華のりけりよは言とてりよは
律ようつてはりけり

そと此世を將傳の事をもせ給ふかは此の打すけん
呂を酒へんと伴の屯にへりやしもやれんは伊夫
緒と可然くくくくく給ふ事なくは思ひ
ましく傳やりんんとすりんとし將傳の事思ひく受
まらま也者くくすり給ひんと作中ありま
あはを同ての申人なりなり

九 後に相公登有の付詩は兩音を年色は月らり
けりの特の博士達落中よき一これ相公做音は
お千里未離地と云天神の湯作を詠られ共
く申入るんより大菅坐相の作より事一國

てまけりとお首を後書く此の十と表の事は系
よ公行のよき何と人幾けし一用はせしまけり公
り公實の孫也是の人とありて邪一なるは
らひたこくく同和

十 良遣の事あよすりといふと云事とよありけり
存邦の國基すくくくく事一はをと邪けれ
とて一はの夜まらりてと云事何國基傳
ぬりやまきくくくく事一はをと邪けれ
かりと云良遣猶業一と古よ

風紙の事一りありて川のわき本宮に麻きぬる事

まじしよしと云けるよと青しそり成はけき物なすし
しそりしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる

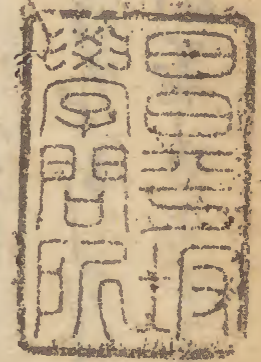
④昔攝廣相とて名譽の性士とけりし昭宣公の表す
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる

成るんやして西廐の馬去を切放せんそりしと云けるよと
おまじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる
まじしよしと云けるよと名ふ事なまうし事なる

よ心うし事ふと解一疾を成て其後也く名有りさる
まふりく成て信ありとてして其自先より大物
まうの物も強きける是ハめくやとまへーとハ思ひ
けさ大さうり思ひし一解信とわく守りく難言とて
けりしる使わたり

①一条天皇の御宇紀をすえり人々其命を馳鞠を
まへにけるよめりとのまらとの後くまげると其
りまの此鞠を大信大物の子形とて人々人々
しといんけさハハ成り信もけるをんめいしと
ち物一もれがわりのこまきとていん云々の信を

まきとんさまに信ありはり是を公行の非
受らるるもそのまら行成ハ捕ぬ候事公りし子
少物義孝の四子也經命とてそく考信もれ大信
大物よのやすすれとありとて公行にりさる
孔子路をさ信もれは老翁一人値り孔子は向て
三度口をあらとく物といんさり孔子是を
業一信ありよとてんはあくも河が志を
とて人々りしとて信あり或文字ハ志とて多
言をあらしとて三緘の誠を不願とてかあり
此事也とてとれとて心約なり



紙數貳拾參枚

